



包括的歯科診療入門—現象と時間の視点から

目次

はじめに ————— 3

第 1 章 なぜ包括的歯科診療なのか？ なぜ基礎が重要なのか？ ————— 7

第 2 章 包括的な視点から病態を診断するための3つの柱 ————— 13
[Ⅰ] 病態分析 [Ⅱ] 炎症と力 [Ⅲ] 時間軸

第 3 章 [Ⅰ] 病態分析 ————— 19

個別的診断 ————— 20

1. 患者個別の病態 ————— 20
2. 顎顔面の病態 ————— 20
3. 歯列咬合の病態 ————— 31
4. 歯牙歯周の病態 ————— 37
5. 個別的診断に基づいた病態分析と咬合再構成 ————— 40

総合的診断 ————— 48

1. 疾患を総合的に診るとは ————— 48
2. 総合的診断のための3つの指標 ————— 54
 - ①機能要素間の動的平衡がとれているか ————— 54
 - ②顎口腔系全体としてうまく適応しているか ————— 56
 - ③治療介入の是非と治癒の可能性 ————— 60
3. 総合的診断に基づいた病態分析と咬合再構成 ————— 69

第 4 章 [Ⅱ] 炎症と力 ————— 79

炎症のコントロール ————— 80

1. 歯周治療における基本事項 ————— 80
2. 炎症と力のコントロールによる咬合再構成 ————— 91

力のコントロールはどこまで可能か ————— 99

1. 咬合再構成における力のコントロール ————— 99
2. ブラキシズムに対して犬歯誘導は有効か ————— 101

- 3. 睡眠時ブラキシズムと犬歯誘導 ————— 106
- 4. 犬歯誘導と臼歯離開咬合は本当に必要か ————— 113
- 5. 神経生理学的視点からみた力の問題 ————— 121
- 6. 咀嚼筋以外の外部からの力に気づく ————— 121

第5章 [Ⅲ] 時間軸 ————— 129

- 1. 歯科臨床を時間軸のなかでみる ————— 130
- 2. 患者とその疾患の背景にある流れを診る ————— 133
- 3. 崩壊する歯列と崩壊しない歯列はどこが違う？ ————— 138
- 4. 現象と時間の視点から咬合崩壊を振り返る ————— 147

第6章 包括的歯科診療における修復治療 ————— 157

- 1. 歯冠修復における基本事項 ————— 158
- 2. 歯周組織のマネジメント ————— 171
- 3. 咬合再構成における修復治療 ————— 180

第7章 咬合崩壊と咬合再構成 ————— 185

- 1. 咬合崩壊とは ————— 186
- 2. 下顎位をどう診断し、どう求めるか ————— 188
- 3. 咬合再構成における優先順位を考える ————— 195
- 4. 形態的調和と機能的調和の模索 ————— 204
- 5. 咬合再構成における補綴処置 ————— 214

第8章 包括的歯科診療を実践するには ————— 225

第9章 フォローアップからみる経年的変化 ————— 233

- おわりに ————— 239
- 参考文献 ————— 240
- 索引 ————— 242

表紙デザイン：金子俊樹
本文デザイン：安倍晴美